



市之倉だより

多治見市立 市之倉小学校 令和8年11月号
〒507-0814 多治見市市之倉町 10-381
TEL 0572-22-3702 ホームページ <http://school.city.tajimi.lg.jp/ichinokura/>

9月10月は雨が多くすっきりしない天気が続きましたが、どの学年も校外学習に出かける日は奇跡的に晴れるという幸運に恵まれました。子供たちは前期を振り返り、後期に少し気持ちを切り替えて入ります。引き続き、地域の皆様からも温かいお声掛けや見守りをお願いいたします。

啐啄同時（そったくどうじ）

※雛が卵から生まれ出ようと内側から殻をつつくのと同時に、親鳥が外側から殻をつついて破るのを手助けし、そのタイミングが完璧に一致するという意味の禅語

校長 河合 哲仁

今回は、わたしが先日（10月9日）の前期終業式で全校に向けて、ある看板について話したものを掲載させていただきます。雨の日が続き、子供たちが外で遊べないストレスを溜めていたこともかなり影響していたと思いますが…。

（前略）最近、少し前から、廊下の真ん中に気になるものが設置されました。わかりますか？

「廊下は静かに歩こう」という看板です。

今までは見かけなかったこの看板。この看板は、みなさんが安全に、気持ちよく学校生活を送れるようにと考えて、設置してくださったものです。うるさくて迷惑がかかったり、ぶつかってけがをしたりしないようにと、みなさんのことを思っているもので、ありがたいものです。

でも、わたしは、この看板を見て、少し複雑な気持ちになります。わかりますか？

こういう看板が必要になるのは、どうしてでしょうか？

先日も6年生の女の子が「廊下を走る子が多くて危ないから、校長先生何とかして…」と困った顔で話してくれました。そういうことを言わせてしまって申し訳ないと思います。でも、「何とかしなければ」と思っている人は他にも多いように感じています。

看板がずっと廊下にあるということは、「おいおいちょっと、気をつけて」ということを、いつも目にしていなければならないということです。先生たちや児童会の人たちが廊下に立って見張って注意をしなければいけないのでしょうか？廊下では歩く。階段も走らない。友達と話すときには、周りの人のことも考えて声の大きさを調整する。これは毎日看板を目にしなければ気づけないことでしょうか？

わたしは、この看板ができるだけ早くなくなってほしいと思っています。しかしその方法は、誰かが見張ったり注意したりするのではなく、みなさんが、「看板がなくても大丈夫だよ」と行動で示してほしいのです。

一人一人が少し意識するだけで、学校の様子は変わります。

みんなが意識して、いつか「もう、この看板はいらないね」と言って、そっとその看板が片付く時が来たら、とても素敵だと思いませんか。

どんなことでも同じです。

「あれ、おかしいな」「直したいな」「がんばりたいな」と感じたら自分たちで治す力が欲しいです。そんな時こそ、先生たちはそっとみんなのサポートをしたいです。前期に頑張ったみなさんだからこそ、後期はさらに一歩進んで、自分で考えて、みんなでさらに楽しい学校を、一緒につくっていきましょう。

子ども自身の「できるようになりたい」「知りたい」あるいは「直したい」などという意欲と、教師の適切な働きかけが響き合うことで、子どもは主体的に学び、行動し、成長していきます。今後もその瞬間を作り出すこと、そしてその瞬間を逃さないことを大切にしていきたいと思います。

この話から10日あまり。廊下の様子はかなり良くなっています。もう少し見届けたいと思います。

